

新潟市都市計画基本方針

市の都市計画の基本的な方針として、平成20年7月に策定しました。

めざす都市のすがた

田園に包まれた多核連携型都市
—新潟らしいコンパクトなまちづくり—

これは、「田園・自然」に囲まれたまち（市街地）が、まちなかを中心としたまとまりのある（コンパクトな）まちを形成し区（生活圏）の自立性を高めることと、それぞれの区の連携を高めることにより、様々な個性と魅力をもつ連合体としての新潟市を目指すものです。

都市全体の構造

都市全体の構造を、以下の3つの要素から考えます。

- 市街地形態の維持と田園・自然の保全（面の構造）
- 都市及び地域の拠点の育成（点の構造）
- 地域の拠点間の連携（線の構造）

図 都市構造概念図



新潟らしい景観形成

都市の魅力の一つとして、潤いややすらぎのある快適な都市環境が求められています。

美しく个性的で魅力あるまちづくりを目指し、新潟らしい景観をまもり、そだて、作り出すために、本市では平成19年に景観法に基づく景観計画と条例を定めるとともに、平成8年に屋外広告物法に基づく条例を定め、総合的・計画的に景観形成を推進しています。

また、各地域の歴史と文化を活かし、賑わいと活力あるまちづくりを進めます。



（本市を代表する景観 萬代橋と信濃川）



（屋外広告物と一体となった東大通りのバス停）
（都市計画課）

コミュニティを醸成する市街地整備の推進

鳥屋野潟南部開発計画

－水と緑に恵まれた自然・優れたアクセス性 鳥屋野潟南部は都市のアメニティゾーン－

「鳥屋野潟南部開発計画」は、新潟市内にあって豊かな自然を残す鳥屋野潟に隣接するとともに、高速交通網の結節点に位置する鳥屋野潟南部地区約270haにおいて、環日本海地域の拠点にふさわしい環境の優れたアメニティ空間の創出、新しい都市機能の導入を行うもので、民間活力の導入を図りながら、県・市・亀田郷土地改良区の三者で、整備を推進しています。

新潟市民病院



平成19年11月に、新潟市民病院が開院し、その周辺において、土地区画整理事業により基盤整備が行われ、病院関連施設の立地が進んでいます。(ウェルネスゾーン)

(仮称) 食と花のいがた交流センター建設地



HARD OFF ECOスタジアム新潟



平成21年6月に「HARD OFF ECOスタジアム新潟」が完成し、プロ野球公式戦も開催されています。(総合スポーツゾーン)



長潟南土地区画整理事業施行地区

鳥屋野潟南部地区 A=270ha

鳥屋野潟南部地区全景

まちなかのリニューアル

－地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなか再生を支援－

各地域の市街地中心部を“まちなか”と位置付け、地域の魅力を活かした、暮らしやすくにぎわいあふれるまちなかの再生を目指し、市民が主体的に行うまちづくり活動に対し支援を行っています。また、政令市の顔である中心市街地の活性化に向け、土地の高度利用や都心居住の促進、広場や緑地等の公開空地の整備といった良好な市街地形成を図り、まちなか再生につながる民間の建築活動に対し支援を行っています。



【寄居町地区
まちなか再生建築物等
整備事業】
既成中心市街地である
古町周辺地区に建築され

た築40年余りを経過した老朽マンションを建替え、優良住宅による都心居住の促進と公開空地による周辺環境の改善を図りました。



【西堀通6番町地区
まちなか再生建築物等整備事業】
低未利用地に、住宅と商業施設による複合ビルを建設し、都心居住の促進と土地の合理的かつ健全な高度利用により、中心市街地の活性化を図ります。

緑豊かな敷地内通路

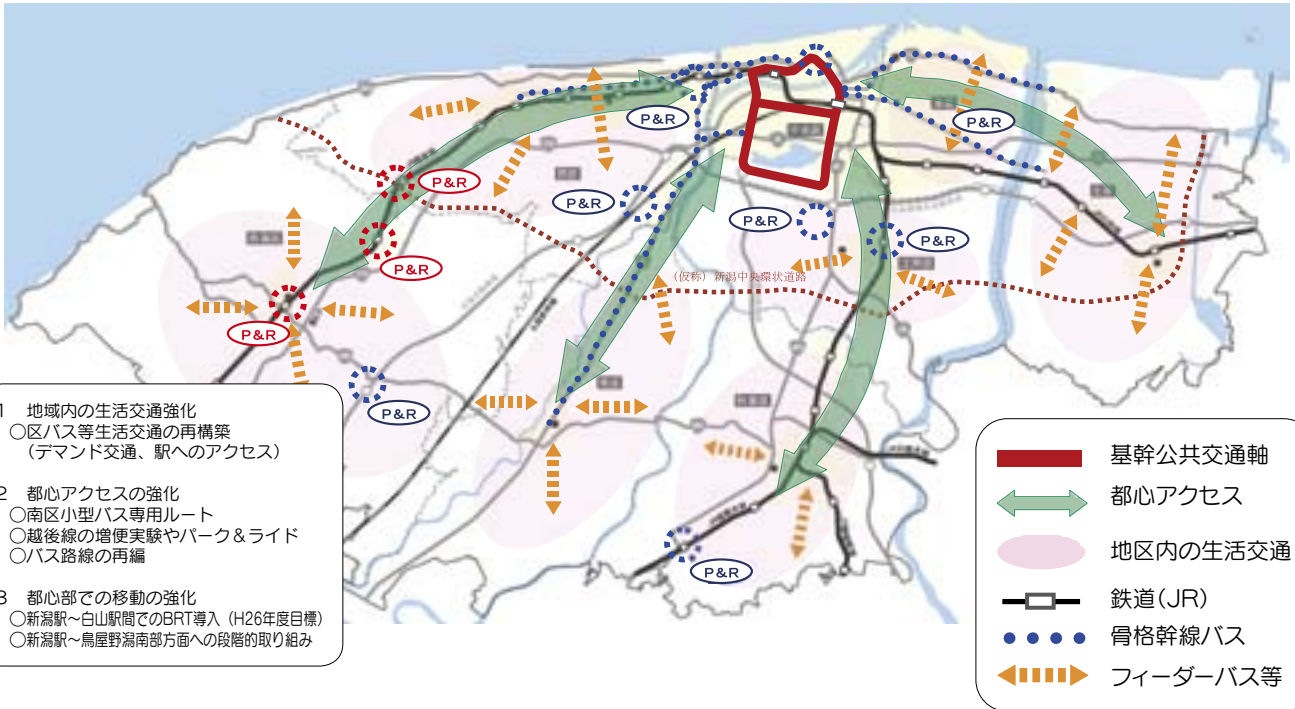


(市街地整備課)

快適に移動できる交通便利都市を目指して

「にいがた交通戦略プラン」&「オムニバスタウン計画」の推進

基幹公共交通軸を中心にバス交通の機能強化を図るとともに、区バスや住民バスなどにより、生活交通の確保に向けて取り組みます。



- 1 地域内の生活交通強化
 - 区バス等生活交通の再構築 (デマンド交通、駅へのアクセス)
- 2 都心アクセスの強化
 - 南区小型バス専用ルート
 - 越後線の増便実験やパーク&ライド
 - バス路線の再編
- 3 都心部での移動の強化
 - 新潟駅～白山駅間でのBRT導入 (H26年度目標)
 - 新潟駅～鳥屋野潟南方面への段階的取り組み

- 基幹公共交通軸
- 都心アクセス
- 地区内の生活交通
- 鉄道(JR)
- 骨格幹線バス
- フィーダーバス等

バスICカード「りゅーと」の活用

バスの定時性・走行性の向上と併せて、乗継割引やSuicaとの連携など、市民生活に便利なバスICカードの活用に取り組みます。

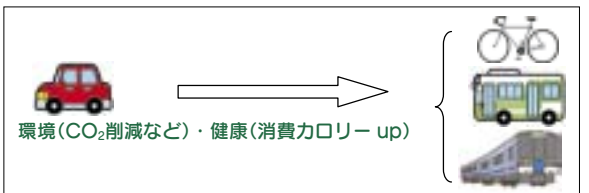


資料提供：新潟交通株式会社

- バスICカード「りゅーと」
- 平成23年4月24日 : 一部路線サービス開始
 - 平成24年3月16日 : 定期券サービス開始
 - 平成24年7月(予定) : 市内全域サービス開始
 - 平成25年春 : 乗継割引サービス開始
 - 平成25年春 : JR「Suica」連携サービス開始予定
- ※発行枚数約30,000枚 (H24.4.30現在)

モビリティ・マネジメントの推進

ノーマイカーデーの実施など市民への意識啓発により過度な自動車依存からの脱却を目指します。



※モビリティ・マネジメントとは、過度に車が利用されている状況において公共交通や自転車などへ自発的な交通行動の変化を促すコミュニケーションを中心とした交通施策

『公共交通及び自転車で移動しやすく快適に歩けるまちづくり条例』の制定

(社会環境の変化)

超高齢社会への対応
健康の増進
環境負荷の低減
まちの賑わいの創出

過度な自動車依存からの転換

- まちづくりの方向性を条例により明確にし、市民と目的を共有
- ◎基本となる理念
- ◎市民、公共交通事業者、市等の責務
- ◎基本的な施策 など

(都市交通政策課)

新たな交通システムの導入

基幹交通軸の強化を図るため、医療・教育・商業・文化・行政など高次な都市機能が集積している都心部において、自動車を使わなくても誰もが快適に移動しやすい交通環境を目指し、“わかりやすく” “使いやすい” “魅力的” な新たな交通システムの導入に向けて取り組んでいます。

平成23年5月に学識経験者・関係機関・市民組織等からなる「新潟市新たな交通システム導入検討委員会」より、BRT（次世代型バスシステム）の早期導入等、導入の方向性について提言を受け、平成24年2月、「新たな交通システム導入基本方針」を公表しました。

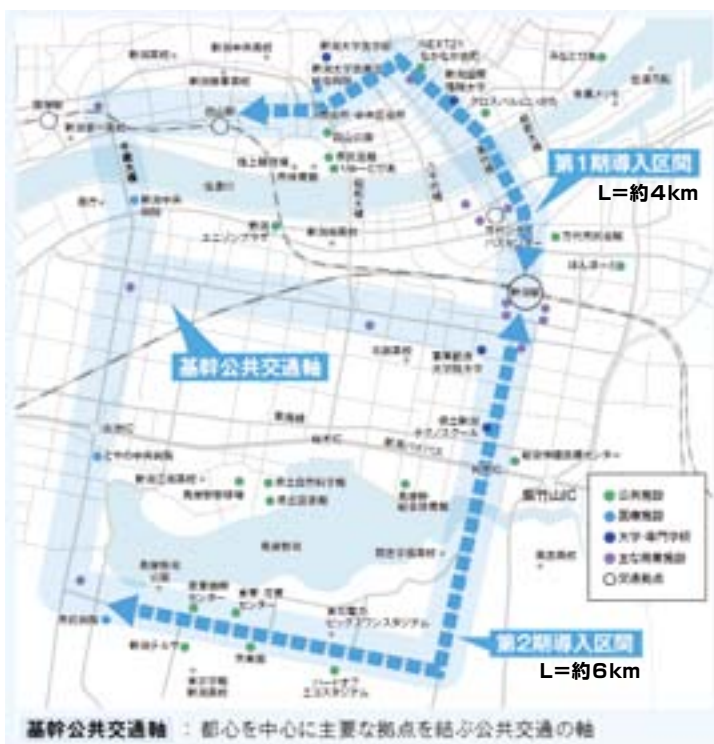
BRTとは？（Bus Rapid Transit）

従来のバスのイメージを一新する次世代型のバスシステム。連節バスが主に専用空間を走り、より早く、より正確に、多くの人を運びます。



導入ルート

導入イメージ



第1期導入区間（新潟駅～白山駅間）は平成26年度の導入を目指します

※第2期導入区間（新潟駅～鳥屋野潟南部）は導入空間の確保を段階的に図りながら、出来るだけ早い時期の導入を目指します

（新交通推進課）

～日本海交流都市の拠点づくり～

新潟港利用活性化事業

近年の東アジア地域の経済成長により、物流の日本海側へのシフトが顕著になっており、この活力をわが国に引き込む上で、新潟港は、大変重要な役割を担っています。

<主な事業>

- ・「日本海側拠点港」の形成に向けた取り組み
- ・日本海横断航路の安定化
- ・北関東圏、南東北圏を視野に入れたポートセールス

(港湾課)



新潟空港利用活性化事業

新潟空港の航空需要の拡大を図り、活性化を促進するため、利用客の増加や国際交流の促進などの事業を実施し、新潟空港の拠点化を高めます。

<主な事業>

- ・国内・国際各既存路線の活性化
- ・中国首都圏方面のほか、東南アジアへの新規航空路開設に向けたエアポートセールスなどの実施

(空港課)

万代島にぎわい空間創出事業

「みなとまち新潟」を象徴する、活力と魅力あふれる「にぎわいの港」空間を創出し、交流人口の拡大を図ります。

<これまでの動き>

万代側の魚市場跡地に、民設民営の市民市場「ピアBandai」がオープン（H22.10）

<主な事業>

- ・朱鷺メッセ側の旧漁協跡地について利活用を検討



(港湾課)

新潟駅周辺整備事業概要

新潟駅周辺整備は、鉄道を挟んだ南北市街地の一体的な整備を図り、日本海拠点都市にふさわしい都市機能の強化に向けて、鉄道在来線の高架化や幹線道路、駅前広場等の都市基盤整備をはじめ、駅周辺市街地の総合的な整備を図るものです。平成23年度には、事業着手から概ね5年が経過した事から、現状を踏まえJR東日本とともに工程精査を進めてきました。



万代広場整備イメージ
(駅2階デッキから東大通り方向を望む)



新潟駅周辺整備事業の新たな整備目標

今後は道路や広場整備も合わせ新たな整備目標に取り組めます。

供用目標	鉄道関係	広場・道路関係	<参考> 新交通システム導入計画
H25年度頃～	白山駅舎・南北自由通路	(都) 駅南線 (H26年度頃) 万代広場・白山駅前周辺 部分整備	(H26年度頃) 新潟駅(万代広場)～白山駅間 BRT供用開始
H30年度頃～	越後線複線化 越後線高架化 暫定開業 同一ホーム乗換	(都) 新潟島屋野線 (都) 出来島上木戸線 (都) 新潟駅西線(一部を除く)、 高架側道・区画道路(越後線側)	(H26年度～H30年代前半) 駅南側へBRT車両の走行を検討
H33年度頃～	新潟駅高架化 信越本線・白新線高架化	(都) 新潟駅西線 高架側道・区画道路(信越本線・白新線側)	(H34年度頃) 高架下交通広場供用による 新交通システムの南北一体化
H35年度頃～		万代広場・高架下交通広場 (都) 新潟駅東線(鉄道交差点) (都) 明石紫竹山線	

連続立体交差事業

本事業は、JR信越本線等の新潟駅付近約2.5kmにおいて鉄道を高架化することにより、2箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業です。平成24年度は、高架化に伴う在来線の仮移設工事及び電車留置線の高架橋工事を進めます。

また、駅部においては今秋の仮ホーム供用に向けて工事を行います。



整備中の仮ホーム(新潟駅8・9番線)

白山駅周辺整備事業

連続立体交差事業による新潟駅のスリム化に伴い、白山駅のホームと線路を「1面2線」から「2面3線」に改造します。

あわせて地下自由通路、地下駅舎、駅前広場などの整備を行います。これにより白山駅南側からも駅利用が可能になるとともに、駅舎や駅前広場のバリアフリー化が進み便利になります。



白山駅工事状況
(新潟駅周辺整備事務所)